



Japan
Jenaplan
Association

vol. 38 2020. 9月号

一般社団法人
日本イエナプラン教育協会
ニュースレター

Contents

1. 人間の学校・教育でなく養育・学校共同体
—ペーターセンが求めていた文化差を超えたユニヴァーサルな価値—
 2. 第5回全国大会が開催されました
 3. 「第5回日本イエナプラン教育全国大会」を終えて
 4. 協会理事選挙のお知らせ
 5. 支部報告
-

人間の学校・教育でなく養育・学校共同体

—ペーターセンが求めていた

文化差を超えたユニヴァーサルな価値—

リヒテルズ直子

理論と実践の間で

長野県佐久穂町の大日向小学校や広島県福山市の常石小学校などでイエナプランの実践が始まり、ずいぶん時間が経ちました。実践現場に立っている先生方は、イエナプランのことを頭ではわかっていたつもりでも、現場で実践しようとしてみると、毎日、様々な問題に直面している様子です。同じことはおそらく、イエナプランスクールという名前を名乗らなくても、個人で自分の教室で部分的にイエナプランを取り入れてみたり、学校という枠の外で学童保育や子どもたちの居場所づくりの活動にイエナプランを導入しようとしている人たちにも言えることではないかと想像します。

なぜなら、教育とは、元来、そういうものであるからです。教育は、そこにいる子どもたちの性格や社会的背景、また、一つの教室にいる集団としての子どもたちが生み出す独特的な関係性や雰囲気などに基づいて、常にクリエイティブに工夫しながら企画され、実施されていくべきものだからです。学校にやってきている子どもたちの姿をよく観察し、そういう現場の様子に対して理論としての知識をどう実践に翻訳すれば、目指しているビジョンを実現できるかと考え続け、試み、失敗し、また新しい気づきを得て理論を読み直し、その深い意味を理解して再度現場実践で挑戦してみる、、、それを続けるのが教員の仕事であり、どんな教育ビジョンであるにせよ、ベテランとは、この理論と実践の往還を何度も重ねた人のことを言うのだろうと思います。

先駆的マイノリティとしてのイエナプランナー

とは言え、イエナプランのような理念に基づく教育をこれまであまり広く実践できなかった日本では、すでにこれとは異なる理念をベースとした一種の「学校文化」が出来上がっており、イエナプランの実践者たちは、自分たちの周りにいる大人たちが、その古い学校文化に染まりきっていて、「言いたいことがうまく伝わらない」「自分自身と周りの人が学校に期待しているものが違う」「子ども観が違う」「社会観がそれ違っている」などと感じている人も多いことでしょう。

実際、ペーターセンだけではなく、当時新教育運動に関わっていた教育者たち、今もそれを継承している人たちのほとんどは、おそらく、同じような不満や苛立ちを感じてきたのではないかと思います。それは、新教育運動というもの、そして、ペーターセンのイエナプランそのものが、皆さんもご存知の通り、単なるメソッドではなく、学校教育や公教育についての「オルタナティブ」すなわち、これまでの学校の常識を覆す新しい考え方に基づく学校を目指すものであったからに他なりません。

もしかすると、ペーターセンら、新教育を唱えていた人たち自身ですら、実践現場では、自分が「言っていること」と自分が思わず「やっていること」の間に矛盾が起きることもあったのではないかと思うのです。それほど、人は、自分が育ってきた間に無意識のうちに受けた影響、特に親から受けたしつけや家庭教育、学校からの影響を客観的に自覚することが難しいものなのです。ましてや、保護者も学校の教員も、常に自らの子育てや教育の理念を見直しているとは必ずしも言えず、大半は、理念（なぜこうするのか）よりも、方法（どう教えるか）に心を向けるのが精一杯で、自分のやり方を見直す暇などあまりないというのが現実なのではないでしょうか。

よく「魚は自分が泳いでいる水のことは知らない」と言います。これを、私たち人間に言い換えると、自分が生まれ育ってきた社会は、この魚が泳いでいる水のようなもので、私たちも、その中にどっぷり浸かっている間は、それがどんなものであるのかを考えることはほとんどありません。魚は水が変わった時に初めて、自分が育ってきた水との違いに気づくでしょうし、私たちも異なる社会のことを学んだり、そこに身を置いたりしたときに初めて、自分がこれまで「当たり前だ」とと思っていたものが、必ずしもそうではないことに気づくものです。自分が生まれ育った社会を出て、少し、あるいは、大きく異なる考え方で動いている社会に身を置いてみると、「え、そういうやり方があったのか」「へえ、こんなに簡単な方法で変えられるんだ」「目から鱗だなあ」という感動を抱いたりという経験を皆さんもどこかでしているのではありませんか。

こういう、魚にとっての水のようなもの、個人を取り巻いているある場所やある時代の常識や思い込みの束のようなものを「パラダイム」と呼ぶことがあります。今、イエナプランに取り組んでいる人々は、日本の伝統的な学校文化という一つのパラダイムの中に入り込み、別のパラダイムを組み立てていこうと

している人たち、時代を先取りする「先駆的マイノリティ」なのです。風当たりが強いのは当たり前だし、皆初めてなのですから、失敗はあって当たり前です。

学校共同体の意味

だからこそ、風当たりがあっても耐え続け、自分の失敗に気づかせてくれる仲間が必要です。新しいパラダイムの構築は、一人ではできません。その方向にいきたいと願っている複数の人、それもかなりの数にのぼる人々が連携して、お互いを尊重し合い、お互いから学び合い、そしてときにはお互いを励まし合うことで、パラダイム転換の夢を維持し続けていくことが成功への一つの道であると思います。古いパラダイムを少しずつ批判的に見直し、新しいパラダイムを少しずつ確固なものとして新しい時代へと向かっていくには、仲間は不可欠なのです。

「社会を変えたい」と考えている人は少なくありません。また、社会は、放っておいても何かの原因で常に変わり続けているのですが、ただ無策に変化の流れに身を任せているのではなく、こうあるべきだと考える「より良い」社会に変えるには、それを絶えず言葉にして表し、絶えず対話をし続け、より良い社会への希望の火を協働の力で灯し続けていく仲間が必要です。

その仲間を、ペーターセンは「共同体」と呼んでいました。そして、そういう仲間を学校共同体として築くことが大事なのだと。この学校共同体は、子どもたちだけが作るものではありません。また、「ここで育った子どもたちがきっと未来を変えてくれる」と、社会のより良い変化を未来に先延ばしするものでもありません。そうではなく、学校共同体があることで、そこに関わる大人たち自身が、自らが無意識のうちに身につけてしまっている古いパラダイムに気づき、自分たちが心に描く理想の社会に少しでも近い社会を、「いま」「この場で」実現するチャンスを与えるものもあるのです。なぜなら、そういう、力強く変革に向かって自ら努力している大人の姿が見えないところで、子どもたちが真に「目指すべき共同体」が何であるかを理解することなど不可能だからです。

学校共同体って何？

イエナプランの学校共同体について、「イエナプラン 共に生きることを学ぶ学校」の著者であるヒュバート・ウィンタースとフレーク・フェルトハウスとは、学校共同体は、子どもと保護者と学校の教職員の3者で作るもので、しかも、大切なのは、この順番、すなわち、学校共同体の中心にいるのは子どもたちだが、それを取り巻いているのは、教職員ではなく、まず何よりも保護者であり、その周りを教職員が取り巻くということを言っています。日本の学校の現状を振り返ると、想像もつかないことかもしれません、おそらく、ペーターセンの時代の学校もこれまでの多くの日本の学校のように権威的で排他的であったに違いなく、ヒュバートやフレークが子どもだった頃の学校も、多分、保護者は学校教育の枠の外に置かれていたと思います。

では、なぜ、学校共同体の中で教職員よりも真っ先に子どもたちのそばにいるのが保護者なのでしょうか？それは、ペーターセンが、学校で行われる活動を「教育」と呼ばず「養育（子育て）」と呼んでいたことと関係しています。ペーターセンは、本当は、自分が作っていた学校を「イエナプラン」とは呼ばず「人間の学校」と呼んでいました。人は、元来、生まれ落ちた家庭の中で、親や兄弟姉妹、場合によっては祖父母や叔父・叔母、また近隣の人々に見守られながら育まれるものでした。それが、最も自然な姿です。けれども、ペーターセンの時代には、産業革命の影響で都市化が進み、生活条件の悪い都市で、そういう当たり前の子育て環境にはいない子ども達がすでにたくさん生まれ始めていたのです。その子どもた

ちに、少しでも人間らしい育ちを保障したい、それが「人間の学校」という言葉に現れています。ましてや、当時の人々が「学校」と考えていたものは、産業化や都市化に対して疑念を抱くことなく、ひたすらそれに向けて、つまり、人間の子を機械の一部のようにして行くことを目的にしていたものでした。

「人間の子どもが最良の人間形成、すなわち、その子が生来持っている才能を最大限に伸ばし、また、その子がこの共同体の中でより強くなり、なおかつ、それによってその子自身がより大きな社会に、アクティブなメンバーとしてより豊かに、より価値ある存在として出て行くための、自らの成長欲求に基づく人間形成を得ることのできる養育共同体とは、どのように作られていなければならないのか。もっと簡潔にいうなら、人が自らの個性をパーソナリティとして完全に開花させることのできる養育共同体とはどんなものでなければならないか？」

「小さなイエナプラン」の初めに書かれている上の言葉は、イエナの大学実験校でのペーターセンの探究の目的を示しているものです。そして、その解として、

「学校共同体こそが形成されなければならない」

と彼は述べています。異年齢学級や4つの基本活動やリズミックな時間割やグループ活動（のちにオランダでワールドオリエンテーションに発展）などについて語り始めるよりも前にです。こうしたクラスや授業の形式は、学校共同体を作るという目的があって、それを具体的に展開する中で生み出されてきました。 「学校共同体に」についてのペーターセンの言葉を、他にも少し紹介しておきます。

- ・「学校共同体としてのイエナプランスクールは、家庭と教員とが最も内的に結びついた協働を土台とした家庭学校*Familienschule*でもある」
- ・保護者集団（父母団）と教職員チームがもたらす「自由で普通の民衆のための学校」
- ・「非自立的で非活性的な形式としての旧来の学校から、少なくとも自ら生き生きとした享有社会的な有機的組織にまで発展させたい」
- ・学校共同体*Schulgemeinde*が形成されるべきであり、そこでは、授業は常に第二義的なものとして捉えられる。

いかがでしょうか？

イエナプランスクールは、「保護者にも参加してもらう」「保護者の意見にも耳を傾ける」というようなレベルではなく、それどころか保護者は学校の中での重要なプレーヤーだし、学校職員にとって重要なパートナーなのです。大切なのは、ペーターセンが次のように言っている通り、学校の教職員と保護者の「子育てについてのビジョン」や「世界観」が一致していること、また、それを共有しようと努力していることなのです。

- ・教育理念を純粋に維持することに関して、教育者と保護者集団とがほとんど恒常的に絶えず連携することを意味している。
- ・眞の学校共同体は、（中略）保護者と教育者とが世界観的に一致しているようなところで最も純粋に可能となるであろう。

オランダでの継承

それでは、保護者と教育者が一致しておかなければならない世界観や子ども観とは、具体的になんなのでしょうか。皆さんもご存知の通り、オランダで継承されたイエナプランには、それが明確に示されています。8つのミニマムと、その後にできた20の原則です。

オランダでイエナプランの普及に貢献したスース・フロイデンタールは、ペーターセンの理念のエッセンスを「8つのミニマム」にまとめています。ペーターセンが求めていた学校共同体のあり方の根幹をこの8つの言葉で表現したと言っても良いかもしれません。それは、①インクルーシブな養育、②学校で起きる現実を人間的で民主的なものにすること、③対話の重視、④教育の人類学（人間についての科学に基づく）、⑤ホンモノ性、⑥自由（の尊重）、⑦批判的思考（「なぜ」「でも」と自ら問い合わせ返す思考）に向けた養育、⑧創造性、の8つです。

その後に作られた「イエナプラン20の原則」では、原則1-5に「理想とする人間についての考え方」、原則6-10に「理想とする社会のあり方」が謳われていることは、すでに皆さんもご存知の通りです。これらを、保護者と学校が共有し、それを学校実践に翻訳するときに、絶えず、保護者と学校とが対話し続けること、また、それを基盤に、保護者が、自分の子どもだけのためではなく、他の子ども達のこととも考えつつ学校活動の企画と実施に協力して関わること、それが、イエナプランスクールを最も安定させる鍵であると言っても良いかもしれません。

1970年代、オランダで学校改革を求めていた教育者たちは、政府や自治体に掛け合い、新設校を作ったり、既成の学校のあり方を変えて行く努力をしました。自治体によっては、夕方、保護者らを集めて、イエナプラン、モンテッソーリ、ダルトンプランなど、オルタナティブ教育の実践家や専門家を招いて保護者向けにプレゼンテーションをしてもらい、それを聞いた保護者たちが話し合って、自分たちの学校を「こんな学校にしてほしい」と要望を出して、公立校がイエナプランスクールになったり、新たな学校が新設されたりしました。

残念ながら、日本にはオランダにある「教育の自由」がそれほど大きく認められていないために、保護者が学校を選択する権利が限られています。しかし、イエナプランスクールを作るのであれば、そのビジョンを保護者と共有し、保護者に学校活動の一部を担ってもらう努力をすることは、不可欠なことであると言えます。

子どもよりも大人の変革

イエナプランを実践し始めている皆さんの中には、初めてイエナプランに出会ったときに、「これこそが私が求めていた学校だ」「だから私はイエナプランを勉強して学校を作るぞ」と意気込まれた方も少なくないのではないかと思います。

でも、イエナプランは、一人でできるものではありません。そして、イエナプランナーになるということは、自分と異なる他者を受け入れ、自分の良さとその人の良さとを共に活かす道を探し続ける人間になるということでもあります。

イエナプランでは、子どもたちが「全人格的な人間」として育つことを願っています。ペーターセンは、人を見るときに、「数学がよくできる人」とか「話が上手い人」というように、その人の一部だけを見るのではなく、全人格的に受け入れることを勧めています。例えば、「数学ができるが同時にピアノも弾ける、そして人には丁寧に関わり、穏やかな人だが芯のある人」「静かにものづくりに取り組んでいる人だが、じっくり話を聞くとともに周りの人々のことを深く理解していく、リーダーシップは取らないが全体を

暖かく見守っている人」というように、一人の人が持っている人格を、職種や役職や地位などだけで見て、それだけに基づいて話をしたり関係を作るのは意味がないと言っているのです。言いえるならば、相手が、教職員か保護者かとか、年上か年下かとか、ベテラン教師か新米教師かとか、イエナプランの知識が多いか少ないかなど、相手にレッテルを貼って関わるのはやめようと言っているのです。

イエナプランでは、人は、自分と相手とを、共に同じ社会で生き、その社会のより良い発展のために平等に関わっている人として捉えます。お互い全人格的な存在として認め合い、オープンに関わり合います。イエナプラン教育をしている教員だけが「イエナプランナー」なのではなく、イエナプランスクールに関わっている大人すべてが、「イエナプランナー」になることを求めます。学校の教職員は、それを求めて、まだイエナプランを知らない保護者にガイダンスを与え、自らオープンに協力する姿勢を見せる人であるべきなのです。同じことは、同僚との関係についても言えます。保護者の中には、「保護者」という肩書以上のたくさんの知識やスキルが隠れていますし、教員たちにも「教員」としての仕事以外のたくさんの属性や性質が隠れています。それらは、学校での活動にとって豊かなリソースです。

- ・学校と保護者の間に帰属感情があるとき、つまり、両方の集団がオープンで自由に向き合っているときにのみ、養育は効果的なものになる。
- ・すなわち、両者が、お互いに対して話しかけ、アドバイスを与え合い、また、時には間違いを指摘し合うこともあるオープンな関係性だ。
- ・ファミリーグループリーダーまたは保護者が、このような完全に開かれたオープン性の能力を失うと、養育（子どもを養い育てて行く）の可能性は消滅してしまう。

「イエナプランをやるぞと張り切って始めてみたものの、周りが理解してくれなくてうまくいかない」そう思っている方は、ぜひ、自分のあり方を振り返ってみてください。あなたは、周囲にいる人を、「全人格的に」受け入れていますか？ その人に言われたことに謙虚に耳を傾けていますか？ イエナプランの理想を、相手を安易に否定することなく、共有しようと努力しているでしょうか。

大切なのは、意見を言うのは、相手を「排除すること」が目的なのではなく、相手も自分も、お互いが、これからも一緒に受け入れあって生きて行くために、お互いを高め合うために「オープンであろうとして」意見を言うのだ、という自覚です。「相手もそうしてくれればいいのだけど」と思っているかもしれません。でも、自分の方からそのように働きかけて初めて、相手にその意味を知らせることができます。

何か意見を言いたいときは、まず、相手の良さを3つ見つけてそれを心から称賛していることを伝えましょう。その上で、「ここはこういう風にしたいのだけど」と一つだけ自分からの願望を伝えてみてはどうでしょうか？ 誰だって否定的なことは言わたくないものです。誰だって、自分の努力を認められたいし、褒めてもらいたい。他者に対するポジティブな態度を言葉や行動にして伝えることで、信頼感情が増していきます。この信頼感情こそが学校共同体の土台です。

イエナプラン・スクールは、そんな風に、お互いに心から優しく、でも、伝えたいことはしっかりと伝えて、共に良くなる努力をする温かい共同体であってほしいものです。

*来年2021年4月より、日本国内でイエナプランの専門教員を養成する研修を始める予定です。現在、講師に予定されている人たちと勉強会を重ね、準備を進めています。講師には、日本国内でイエナプランを

研究している大学の教員の方々のほか、ゲスト講師として、オランダの講師たちや、オランダで3ヶ月間の専門教員養成研修を受けてきた卒業生、そして私も加わる予定です。研修を通して、知識だけではなく、この記事で述べたような真の「イエナプランナー」となれるようにディスカッションやグループワークの機会も設けます。皆さんの参加をお待ちしています。

新刊紹介

10月15日に、ほんの木社より二つイエナプラン関係の書籍が刊行される予定です。

1. ヒュバート・ウィンタース、フレーク・フェルトハウズ著（リヒテルズ直子訳）

『イエナプラン 共に生きることを学ぶ学校』（紙本改訂版）

オランダでの研修講師としてお馴染みの二人のベテラン・イエナプランナーによって書かれたこの著は、私の翻訳で、2017年にKindle版電子書籍として刊行されています。当時はまだイエナプランの知名度が今ほど高くなかったのと、一般的に教育関係書籍は書店でもなかなか大部数の販売につながらないのが理由でした。しかし、その後、日本国内でイエナプランの名前が飛躍的に広がり、実践したいと考える教員、学校、自治体なども増えてきました。そこで、昨年2019年秋に教育開発研究所から『今こそ日本の学校に！ イエナプラン実践ガイドブック』を上梓しました。しかし、参考となる書籍はまだまだ足りず、また、Kindle版を使っていた方たちからも使い勝手の良い「紙本」を求める声が多かったため、ほんの木社の社長が呼びかけ人となりクラウドファンディングを実施し、紙本化が実現しました。ファンディングにご協力いただいた皆様には、重ねて感謝申し上げます。

本書は、3部構成で、イエナプランの初心者、初めて実践する人、また、実践しながらさらに向上を求めている人のために、様々なツールを用意し、段階的に学びと実践を深めて行くことができる構成となっています。ぜひ、ご購読をお勧めします。



2. リヒテルズ直子著『手のひらの五円玉』

これまでのイエナプランに関する私の書籍は、オランダのイエナプランについての情報を伝えることを目的に書いてきましたが、今回のこの本は、なぜ私がイエナプランに惹かれるようになったのか、そこに至るプライベートな軌跡を、自分自身の子ども時代の経験、諸外国で暮らした時の経験、子育てをしながら考えていたこと、などをもとにエッセイ風に書きました。また、後半部分では、私が出会ったイエナプランナーたちとの出会いや、その人たちからもらった忘れられない言葉も読者の皆さんに公開しています。そして、最後には、子育て中の若いお母さんやお父さん、また、学校の先生への、私なりのアドバイスを11の項目にまとめています。子育てについて考える、肩の凝らない読み物として読んでいただけると嬉しいです。

第5回全国大会が開催されました

8月22日（土）オンラインにて、日本イエナプラン教育協会第5回全国大会が開催されました。当初は仙台での実施を予定しており、協会宮城支部のメンバーを中心に準備が進められてきましたが、昨今の状況により、オンラインでの開催となりました。

今回のテーマは、「催し」。当日は、オンラインならではの良さをいかし、日本全国のみならず海外から参加してくださった方もいました。120名ほどの参加があり、参加者同士の思いを寄せ合い、共感し、学び合う貴重な時間を過ごせました。基調講演でお話してくださった遠藤さん、分科会で登壇してくださった大日向小学校の先生方、結のいえ保育園の先生方、そして、企画、準備、運営、分科会登壇と大会開催に尽力していただいた宮城支部の皆さん、本当にありがとうございました。

以下、当日のスケジュールと参加者からのアンケートを一部抜粋して掲載いたします。今回の全国大会について後日報告書をまとめさせていただきますので、お待ち下さい。

【第5回全国大会】

1. 開会の挨拶
2. イエナプラン教育における「催し」の概要
3. 基調講演・対談「思いを寄せ合う～「虹の架け橋」～」遠藤伸一氏（木工作家 石巻市）
聞き手 本川 良（宮城支部）

休憩

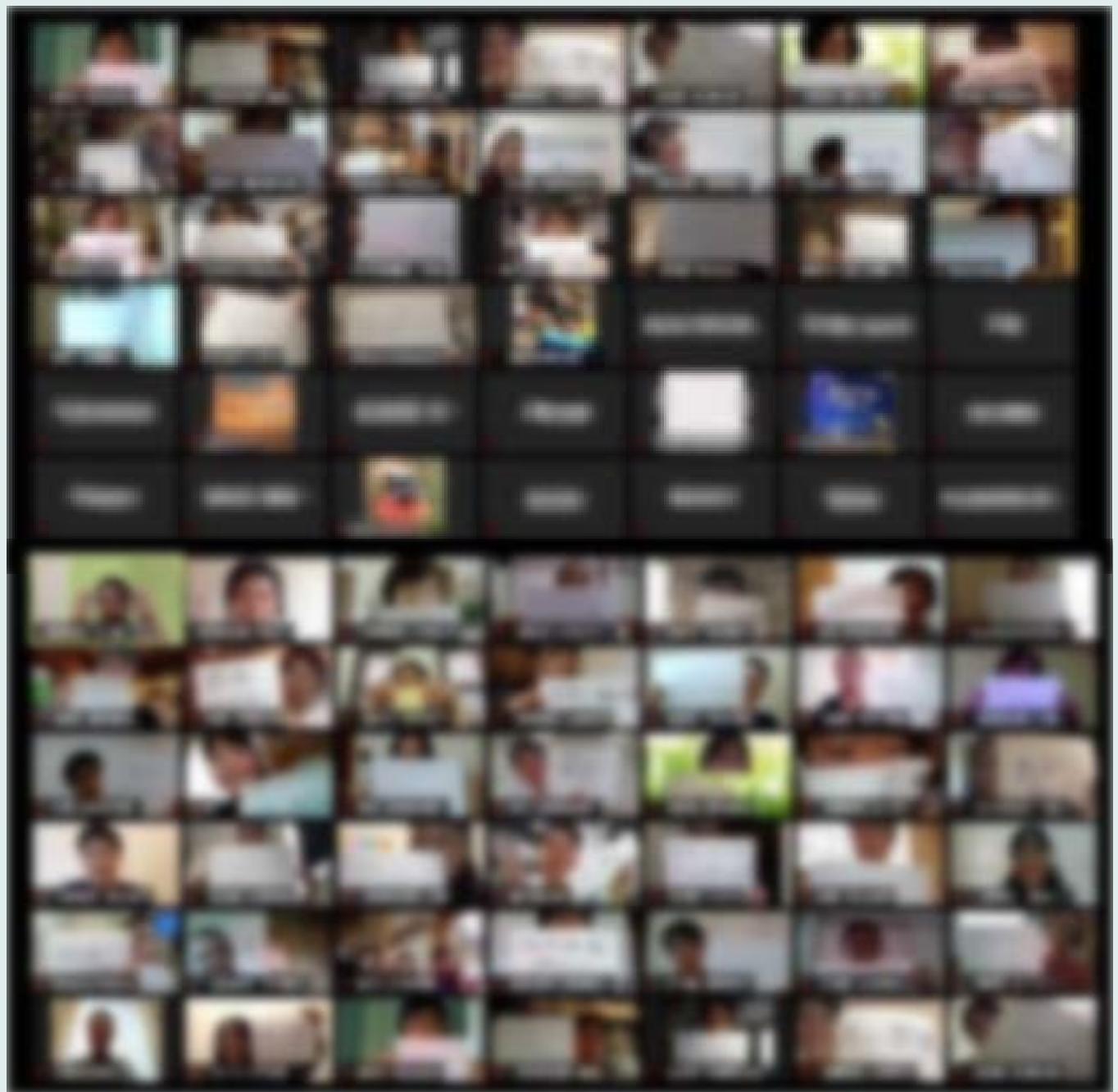
4. 分科会 1
 - A：大日向小学校の「催し」の取組（佐藤麻里子さん）
 - B：『催し』について考えるトークルーム～支部メンバーで実践してきたこと（宮城支部）
 - C：「保育で大切にしてきたこと」（石巻・結のいえ保育園）
5. 分科会 2（1と内容は同じ）
6. 振り返り
7. 閉会

【参加いただいた方々からの感想】～アンケートより～

- ・遠藤さんのお話で、「個人の想いをたくさんの人への想いへ」という言葉がありましたが、嬉しいことも悲しいことも繋いでいける共同体について考えさせられました。
- ・宮城での開催でしたら、自分の体力的に参加できませんでした。でも、ZOOMでの開催のおかげで（なれないPCでしたが）参加できたことがとてもうれしかったです。でも、終了後やっぱり皆さんにお会いしたくなりました。
- ・「催し」は指導要領上では特別活動「学校行事」というイメージでしたが、お話を伺っていて、これは違うな、と思いました。学びのサイクルの中の、大事なステップ、というイメージをもちました。子どもも大人も成長していく中での、節目。そして、ちょっとした頑張りどころ。楽しい、うれしいだけでなく、勇気を出して悲しい、つらいを話す。そのことが対話になり、互いを許し認め合うことにつながっていく、と思います。そして、安心、安全な学びの環境が一層深まっていくのだと感じました。

・わたしの勤める園でも、子どもに「どうした?」「ほんとはどうしたかった?」「(今から)どうしたい?」と、1日のなかで幾度となくたずねています。また、子どもの選択や発見、自分たちで折り合いをつけることを保障できるように、「待つ、見守る」を大切にしている点も同じです。2歳から入れる園で、自分を感じる毎日を過ごしたことが、年長児になり、お誕生会での、あの感情の共有につながっているのだなあ、と、おかげさまで、目の前の子どもの理解が深まりました。そして、自分の仕事を大事に思う気持ちも幾分か高まりました。

(報告: 山ノ井 茉美)



「第5回 日本イエナプラン教育 全国大会」を終えて

宮城支部 本川 良

まずは、大会に参加してくださった多くの方々、そして今回の大会を支えてくださった多くの方々に実行委員会を担った宮城支部代表として感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

第5回日本イエナプラン教育全国大会。

コロナ禍でなければ、宮城・仙台で開催する予定でしたが、未だ続くコロナウィルスの感染予防を考えてオンライン開催となりました。

全国大会のデザインと運営は、私たち宮城支部の1年間のチャレンジでした。まさにイエナプランの4つの基本活動「対話」「遊び」「仕事／学習」「催し」を自分たち自身で回していくそんな体験となりました。

大会をデザインするに当たって私たちで対話を重ねて辿り着いたのは、大会テーマである「イエナプランと『催し』」×「東北らしさ、宮城らしさ」。

震災後10年、宮城、東北の多くの人の奮闘努力と被災地にお思いを寄せてくださる多くの方々の支援活動がお互いの縦横につながり合い今大会の中で1つの結節点として形になった、まさに「催し」になつたと感じることができました。

網の目のように広がったつながりの中で、私たちは今ここを生かされて、活かされていることに気付くことができた「催し」、東北流にいうなら「まつり」。

今回の大会は、悩みつつも「今ここ」で奮闘努力する人たちの生の姿を感じてもらい、参加者の方々と「感情の分かち合い」ができたらいいな、と思っていました。

基調講演も各分科会も、悶々とし、悩み、喜び、また悩み、ちょっと前に進み、そんな日々の葛藤が色濃く出ているものであったと思います。日常ってそもそも、そういうものだと、私たち支部メンバーはこれまでの学習会の中で感じてきたからです。

そういった意味で「泥臭く」いこう、でした。毎月の実行委員会、という支部学習会もその都度メンバー同士で悶々とし、すったもんだし、の連続。でもそれがおもしろかったのです。

繰り返しますが、今回、大会に向けて支部メンバーで実践したことは、私たちの「イエナプラン 4つの基本活動」をリズミカルに回していく体験でした。このこと自体が、私たちの最大の学びであり、今後もイエナプランのコンセプトを考え続ける上で貴重な体験となりました。

大会の開始に先だって、協会理事の中川さんが参加者の方々に伝えた言葉は
「さあ、1日の『旅』がはじまります。どんな旅になるかお楽しみ」

「旅」

そうだなあ、旅、なんですね。

再び、スタートラインに立たせてもらった、そんな気分です。

協会理事選挙のお知らせ

昨年6月、協会組織民主化に伴う初めての理事選挙を実施しました。早いもので、新体制になってから1年と数か月が経過し、選挙で選出された理事も任期2年目に入っています。

この度、二人の理事の任期満了に伴い新たに3名の理事を選挙で選出することになりました。日本におけるイエナプランの益々の発展のため、共に協会運営に関わっていただける方の立候補をお待ちしています。

また、より多くの会員の皆さんに、理事選出に関心を持っていただきたく思います。日本イエナプラン教育協会が、会員によってより主体的に参加運営される学びの場となるよう選挙を運営していきたいと思います。

理事定員：7名（内新理事 3名）

理事任期：4年（引継ぎをスムーズにするため2年ごとに半数ずつ交代する。）

代表理事：新理事の合意で選出

被選挙権：協会正会員であること

選挙権：協会正会員であること

事務局：理事が事務局を兼ねる。さらに、理事会にて理事以外のメンバーを選出することができる。

スケジュール（予定）

2020年12月26日 & 2021年1月11日 両日とも13時～

選挙に関心をお持ちの会員の皆さんと協会理事との交流会

2021年1月 選挙管理委員会立ち上げ

2021年2月 理事選公示、立候補者募集

2021年3月 理事選挙（ネット投票）、新理事会にて代表を選出

2021年度 総会にて承認の上、新体制スタート



支部報告（2020年3月～2020年8月）

【愛知（名古屋）支部】

愛知（名古屋）支部では、オンラインで二度開催されました「学ぼうイエナプランつながろう仲間と楽しもう実践を『ゆるりと実践発表会』」を、名古屋市の学校の先生たちと共同で企画運営することができました。『ゆるりと実践発表会』は、その名の通り、発表者も参加者もゆるりとした気持ちで参加できる気軽な実践発表会です。発表者は回ごとに変わっていきます。また参加者は学校の先生に限らず、興味のある方はどなたでも参加できます。

イベントでは、参加者がイエナプラン教育の「20の原則」をじっくり読んで対話した後、3人の学校の先生たちがイエナプラン教育をもとにした実践発表を行いました。参加者は、発表者それぞれの実践が「20の原則」とどうつながっているかなどを考え、その後対話を通して交流しました。「きいても良いしきかなくても良い、話しても良いし話さなくても良い」を大切にしたオンラインの場で、参加者と発表者・企画運営者が一緒に学びあいました。

イベントは今後も回を重ねるごとに実践発表者が変わりながら開催していく予定です。ゆるりとしたスタンスで仲間たちと一緒に活動を続けていきたいです。

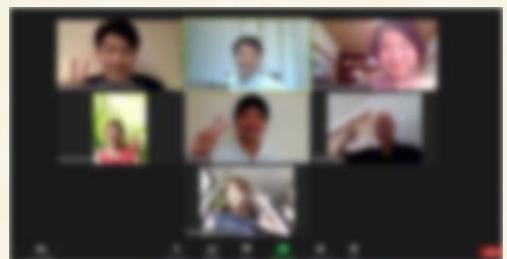
《活動日》

6月28日（日）

第一回「学ぼうイエナプランつながろう仲間と
楽しもう実践を『ゆるりと実践発表会』」（オンライン）

8月30日（日）

第二回「学ぼうイエナプランつながろう仲間と
楽しもう実践を『ゆるりと実践発表会』」（オンライン）



《今後の日程》

今後も、学ぼうイエナプランつながろう仲間と楽しもう実践を『ゆるりと実践発表会』を第三回・第四回と定期的に共同開催するほか、以前開催していた「20の原則」を読む会も開催していく予定です。当面はオンラインでの開催となると思います。

（報告：若杉逸平）

【埼玉支部】

最近活動が滞っていましたが、9月よりオンラインでの勉強会などを企画中です。ご都合合う時に皆様ぜひご参加ください。勉強会では20の原則を参加の方々と対話をしながら考え方で学んでいます。

《活動日》

3月29日（原則12・13）

《今後の活動》

9月 5 日 (原則14~)

「Most Likely To Succeed」ふじみ野上映会 少人数での開催です。

(報告：田村悠子)

【長野（中信）支部】

長野県の中信地区で勉強会やイエナカフェを行っています。日本の公教育を変えていくことを目的に、イエナプラン教育を学び、実践しています。たくさんの方にイエナプラン教育を知ってもらうために、池田町のNEXT IKEDUさんなど他団体のイベントへの協力もしています。

《活動日》

3月25日 「SDGsから教育を考える」勉強会 講師として参加 (塩尻市えんてらす)

7月19日 イエナプラン教育勉強会 for 辰野町川島地区 (オンライン)

8月29日 イエナプラン教育勉強会 (長野県中信支部) (オンライン)

《活動予定》

9月 6日 イエナカフェ for キッズ (池田町創造館)

「あつたらしいなこんな学校！！ みんなでつくる ちっちゃな夢の学校」

企画・ファシリテーターとして参加

(報告：瀧澤輝佳)

【福岡支部】

《活動日》

5月 2日 第40回学習会「2019年オランダ夏季研修報告会」

6月 27日 第41回学習会「コロナ渦でリアル登校が始まった現場で考えること」

8月 4日 原典を読む①

8月 18日 原典を読む②

5月は、2019年のオランダ夏季研修に参加した、久永翔斗さん、野寄佑貴さんをゲストに報告会を行いました。3月開催の予定でしたがコロナの影響で中止となり、オンラインでの開催となりました。日頃から学校現場で、子どもたちに真摯に向き合っておられるお二人に、オランダでの体験・見聞・感想をたっぷりと聞かせていただきました。さらにそれを話題提起として、参加者の方々と、学校という場の本質的意味を考える充実した会となりました。

6月もオンラインでの開催でした。アフターコロナ、ウィズコロナが言われる中でリアル登校がスタートした現場での、発見だったり、喜びだったり、憤りだったり、不安だったり、、、という皆さんのもやもやの持ち寄りパーティーとしました。少しほは発散できたのではないかと思います。

8月からは、福岡支部メンバーの金澤克宏さんの呼びかけで、月2回全8回の予定で、原典を読む会を少人数でスタートさせています。8つのミニマム（スース・フロイデンタール）のオランダ語版に挑戦中。単語ひとつひとつの解釈すら、参加メンバーでさまざまで、それらをすりあわせていく作業にはちょっとクセ

になりそうなおもしろさがあります。

オンライン学習会にも慣れてきました。これもまあ良いけれど、やはり、はやくリアルに集まれるようになることを願っています。

(報告：久保礼子)

【広島支部】 NEW!

イエナプランを手がかりに「広島の教育をもっと楽しいものにしたい」「もっと子どもたちがいきいきとしたものにしたい」「先生たちがもっとやりがいを実感できるようにしたい」という想いで広島支部を立ち上げました。同じ想いを持ったみなさまと共に学びたいと思っております。

《活動日》

5月 11日（月）広島支部 発足

5月 20日（水）第1回勉強会（オンライン）

　　広島支部 Facebook ページに「まとめ」を記載

7月 15日（水）ミニ勉強会①（他のオンライン勉強会と連携）

　　テーマ「4, 5, 6年生の異年齢集団でのワールドオリエンテーションの実践」

　　「子ども主体と子ども任せの違い」他

8月 5日（水）ミニ勉強会②（他のオンライン勉強会と連携）

　　テーマ「4, 5, 6年生の異年齢集団でのワールドオリエンテーションの実践」

　　「これから宿題のあり方」他

　　広島支部 Facebook ページに「まとめ」を記載

8月 19日（水）ミニ勉強会③（他のオンライン勉強会と連携）

　　テーマ「評価のあり方」「研修のあり方」他

《今後の予定》

9月 9日（水）ミニ勉強会（オンライン）

9月 23日（水）ミニ勉強会（オンライン）以後、隔週水曜日実施

9月 26日（土）13:30（仮）第2回勉強会（福山市）企画中

(報告：野島崇志)

【長野（佐久穂）支部】 NEW!

6月から活動を始めました。長野県佐久穂町、佐久市近辺で活動していきます。オンラインだけでなく、少しづつリアルでの勉強会も始めています。

《活動日》

6月24日 第1回勉強会@オンライン「イエナプランとは（入門編）」

ゲスト：日本イエナプラン教育協会代表理事 久保礼子さん

7月21日 第2回勉強会@オンライン「イエナプラン講座 20の原則」

8月23日 第3回勉強会 昼の部 「20の原則2について」
夜の部@オンライン 「20の原則1について」

《今後の予定》

9月の活動日は未定です。ご興味のある方はsakuho@japanjenaplan.orgまで連絡ください。

(報告：山ノ井英美)

【東京（多摩）支部】

1月に初の勉強会をしてから早7ヶ月。コロナ情勢もあり、オンラインで第2回の勉強会を8月8日に行いました。今回は、イエナプランビギナーズ研修に参加経験のある中川智文さんをお招きし、「子どもに関する理想の教師（大人）とはどんな人か」について、研修を通して学ばれたことをお話をいただきました。ゲイゲイ引っ張っていくリーダーこそ理想の教師！と思っていた中川さんはオランダに行き、「そうではない！」と教師像の大転換をさせられたそうです。お話を聞き、参加者からは「本物の体験をさせられる教師でありたい」「一人一人の違いに応じて環境や学習のレベルを調整できる教師こそ理想」など、さまざまな教師像への思いが出されました。

《今後の予定》

次回は9月27日に神戸支部との共催で日本初のイエナプランスクール・大日向小学校のグループリーダーの皆さんからお話を伺う予定です。

(報告：新堀貴子)

【愛知（豊田）支部】

2020年1月に開設いたしました。教育関係の仕事に携わる人のみならず、子達の尊厳を大切にした関わりあいに关心がある方、多様な個性を尊重した学び場に关心ある方、イエナプラン的な自身の在り方に关心がある方に参加いただきたいと思っています。

オランダで花開いたイエナプランですが、豊田では今後ドイツ時代にも着目して学びあう予定です。

《今後の予定》

第2回ミーティング（オンラインの予定）日程は未定ですが、ミーティングをオーガナイズしてくれる安藤さち子さんからのメッセージを紹介します。

『マッピングという手法を用いて、「イエナプラン」に各々がたどり着いた軌跡をたどっていきます。そこから見えてくるバッググラウンドに、各々のコアニーズとそれを共有することで、今後のこの場の運営に活かしていきたい、という意図です。そして、会の運営の在り方がイエナ的であり、みなさんの現場にスケールしていくように充分配慮したいと思っています』



*写真は1月に開催した第1回ミーティングの様子です。

(報告：安藤順)



各支部のご案内

- ・ 北海道（帯広）支部 … hokkaido-obh@japanjenaplan.org
- ・ 宮城 支部 … miyagi@japanjenaplan.org
- ・ 埼玉 支部 … saitama@japanjenaplan.org
- ・ 千葉（浦安）支部 … chiba@japanjenaplan.org
- ・ 東京（世田谷）支部 … info@japanjenaplan.org
- ・ 東京（多摩）支部 … tama@japanjenaplan.org
- ・ 神奈川（湘南）支部 … syounan@japanjenaplan.org
- ・ 長野（佐久穂）支部 … sakuho@japanjenaplan.org
- ・ 長野（東信）支部 … toshin@japanjenaplan.org
- ・ 長野（中信）支部 … matsumoto@japanjenaplan.org
- ・ 長野（南信）支部 … nanshin@japanjenaplan.org
- ・ 長野（アルプス）支部 … alps@japanjenaplan.org
- ・ 愛知（名古屋）支部 … nagoya@japanjenaplan.org
- ・ 愛知（豊田）支部 … toyota@japanjenaplan.org
- ・ 関西（大阪）支部 … kansai@japanjenaplan.org
- ・ 兵庫（神戸・明石）支部 … koubeakashi@japanjenaplan.org
- ・ 広島 支部 … hiroshima@japanjenaplan.org
- ・ 福岡 支部 … fukuoka@japanjenaplan.org
- ・ オランダ支部 … oranda@japanjenaplan.org

